透析患者さんの災害対策

◎透析中に地震が起こったら

布団を頭からかぶり、回路を手で握り、ベッド上部の柵を持って揺れが収まるのを待ちます。
その後はスタッフの指示に従って行動して下さい。避難する際は必ず靴を履きましょう。

◎透析施設以外で災害にあったら

大災害が起きると、停電や断水、ガスの供給停止、施設や設備の破損等の為、自施設で透析ができなくなる可能性があります。災害直後は電話が繋がりにくくなり、病院も電話を使う機会が増える為、患者さんからの電話対応は困難になります。
「災害伝言ダイヤル」「研信会災害メール」「研信会公式 LINE アカウント」で病院からの情報を確認してください。

◎避難所に避難した場合

「避難所登録票」に“透析”を受けていることを、必ず記載して下さい。
透析を受けている事を自治体の職員やボランティア、巡回の医師・看護師に申し出て下さい。

◎他施設で透析を受ける事になった場合

透析時間が短かくなったり、次の透析までの間隔が長くなることがあります。
透析受入れ施設と自施設の連絡が取れない場合もあります。
患者さんご自身で透析に必要な情報を把握しておいてください。

≪ご自身で覚えておくこと≫

- ◉アレルギー（ダイアライザー、薬剤）
- ◉感染症の有無（慢性肝炎など）
- ◉処方されている薬の種類と飲み方（お薬手帳の持参）
- ◉糖尿病、インスリン使用の有無（被災時の食事内容により調節が必要なものもあり）

◎災害時の持ち出し物品

≪透析に関する重要なもの≫

- ◉処方されている薬、インスリン
- ◉お薬手帳
- ◉身体障害者手帳(コピーで可)、保険証類一式、マイナンバーカード
- ◉マスク
- ◉止血ベルト

災害時の情報確認と連絡手段について

災害直後は電話がかかりにくくなり、また病院も電話を使う機会が増えるため、個別の電話対応は困難になります。

≪病院からのメッセージ確認方法≫

災害伝言ダイヤル

メッセージ再生方法　1 7 1　⇒　2　⇒　０５６６－８２－１３６７（知立）
０５６６－２２－６８００（刈谷）
０５６２－４７－０００８（大府）

メッセージ録音　病院への伝言を録音しないでください
登録できる伝言数を超えると、古い伝言は消去されるため確認しません

研信会(知立Ｃ・刈谷中央Ｃ・大府Ｃ)災害時メール

メールアドレス　saigai@kenshin-kai.or.jp

研信会 公式 LINE アカウント

事前に登録しておけば、病院から情報が配信されます。
※登録は患者さんおひとりに対し、一名に限らせていただきます。
（本人、またはキーパーソンとなる方）
登録を希望される方は病院へお申し出ください。

≪病院への状況報告≫

研信会(知立Ｃ・刈谷中央Ｃ・大府Ｃ)災害時メール

メールアドレス　saigai@kenshin-kai.or.jp
患者さんからのメッセージに個別で返信しませんが、入力された内容の確認は行います。
必要時は個別に返信する場合があります。

研信会 公式 LINE アカウント

患者さんからのメッセージに個別で返信しませんが、入力された内容の確認は行います。
必要時はチャット機能を活用し個別に返信する場合があります。
※登録は患者さんおひとりに対し、一名に限らせていただきます。
（本人、またはキーパーソンとなる方）
登録を希望される方は病院へお申し出ください。

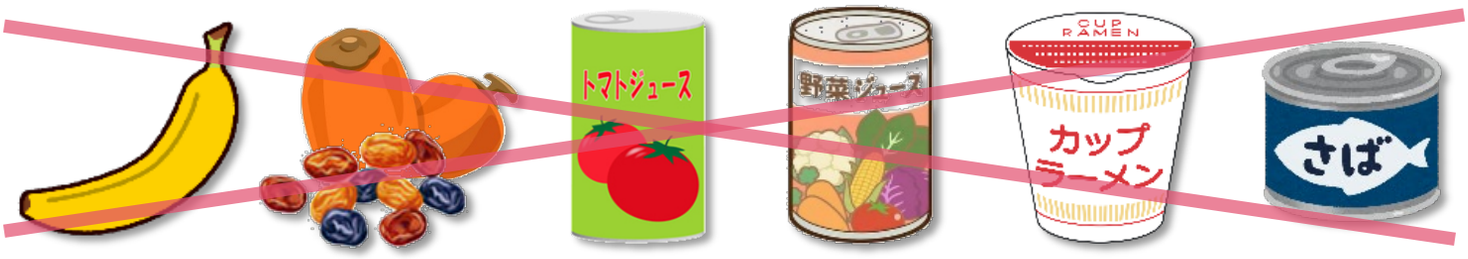
災害時 食事の注意点

～ 透析患者さん向け ～

災害時には、透析が数日間受けられない・透析回数や透析時間が減る場合があり、水分・塩分・カリウム・尿毒素物質が十分に取り除けないことが想定されます。
食糧が不足し、支援物資を使用しなければならない事もある為、いつも以上に食事と水分の管理が大切になります。

● 塩分・カリウムの摂り過ぎに注意

カリウムの多い生果物・ドライフルーツ・100%果汁ジュース・野菜ジュース
塩分の多いインスタント麺・汁物・缶詰は避けるようにしましょう。



● エネルギーの確保

エネルギーが極度に不足すると、体内では筋肉が分解され、尿毒素物質の蓄積に繋がり危険です。ご飯・パン・ビスケットなどは積極的に食べましょう。

● 適切な水分補給

水分制限は大切ですが、制限のしすぎは脱水症症状やエコノミークラス症候群になるリスクがあります。適度な水分補給は必要です。

【１日の目安量】
500㎖、または尿量+300～400㎖